



あるところの高等学校の3年生の男子に、『冗談』みたいな3人組がおりました。彼らの名は『大山』、『中山』、そして『小山』。彼らは互いに互いの存在に気付くや否やバンドを結成。構成はギター、ベース、パーカッション。ヴォーカルラインは3人で分担します。その名も『マウンテンズ』。『そのまんま』でございました。サザエでございます。昼休みには教室の片隅や体育館で、夜は駅前で、アンブレラドライブをやっておりました。

一方、同学年に別の『冗談』みたいな男子3人組がおりました。彼らの名は『大川』、『中川』、そして『小川』。彼らはロックバンドではなく『お笑い』でトリオ漫才などを主にしておりました。彼らのチーム名は『リバーズ』。こちらも『そのまんま』でございました。マルシアでございます。昼休みには教室の片隅や体育館で、夜は駅前で、どつき漫才やショートコントをやっておりました。

彼らにとっての最高の舞台は、やはり毎年10月に行われる高校の文化祭。過去2年連続で『マウンテンズ』と『リバーズ』は文化祭での人気をほぼ独占。その噂は他校にまで広まっておりました。その一方で目立ちたがり屋の『マウンテンズ』と『リバーズ』はお互いに『ライバル視』するようになり、高校生活3年目、最後の文化祭への意気込みは『ハンパではありませんでした』。『サンタは有馬記念ですった』。苦しい。廊下ですれ違えば、見えない火花を飛ばしたり、『悪い念』を飛ばしたり、紙飛行機を飛ばしたりしておりました。

6月、文化祭実行委員会も彼らの人気に気がつき、今年の文化祭では体育館での一連のイベント出演者の『人気投票』を行うことを発表しまして、さらに人気一位に輝いた個人または団体には商品として『卒業アルバムの1ページ独占権』が与えられると発表しやがりまして、それはもう、えらい騒ぎでございました。

『マウンテンズ』も『リバーズ』も最近『ネタ』に困っており、同じネタに頼る事が多くなっておりましたので、周囲の生徒達にも少しずつ『飽き』が見え始めておりました。双方、夏休み中にはなんとかして『決定的』なモノを編み出さねばという想いに駆られておりました。と、そこへ今年的一年生に成績優秀な上に、かなりの『ピアノ』の腕前を持ち、さらに『天然ボケ』をぶちかましになる可愛らしい女生徒の情報が舞い込んできました。しかも彼女の名前は『山川さん』。『マウンテンズ』にとっては『バンド名の変更をすることなく』4人編成バンドへ進化するチャンス。『リバーズ』にとっても『グループ名の変更なく』男3人の暑苦しいどつき合いに華やかさを加えるチャンスでございました。

『マウンテンズ』と『リバーズ』による、壮絶なる『山川さん』争奪戦が始まりました。それぞれ男前の友人をダシに使ったり、ディズニーグッズをダシに使ったり、熱湯風呂にアゴまでつかったりしましたが、『山川さん』が極度の『男子生徒恐怖症』ということが判明しまして、『マウンテンズ』と『リバーズ』の野望はあっけなく頓挫したのであります。(しかし、その後、『山川さん』が他校の男子生徒と仲良くデートをしているところが目撃され、彼女の『男子生徒恐怖症』は彼らの誘いをかわすための『嘘』であることが判明しました。『マウンテンズ』の中山と『リバーズ』の中川が『全治2週間』の女性不信に陥りました。)

7月。高校3年の夏。『マウンテンズ』と『リバーズ』の進路希望調査の返答は以下の通りでございました。

大山：バンドマン

中山：ミュージシャン

小山：シンガーソングライター(\*誤字。寝台特急列車か?)

大川：喜劇王

中川：ホテル王

小川：世紀末覇者ラオウ(お前、歳いくつだ?)

6人とも進路指導担当の教員から「ふざけるな。」とのお叱りの言葉をいただきました。何にせよ、熱い、暑い、高校3年の夏が来ました。夏の高校野球よりも、夏期講習よりも、彼らの頭の中は『文化祭』と『女の子』のことでいっぱいでした。

8月。夏祭りやら、花火大会やら、不純異性交遊やら、テレビの『怪奇特番』やらの誘惑に『極端に』流される事も無く、『マウンテンズ』も『リバーズ』も練習と新ネタの開発に明け暮れました。彼らは商店街で出くわしては見えない火花を飛ばしたり、『悪い念』を飛ばしたり、シャボン玉をとばしたりしました。そんなこんなで彼らの『高校3年の夏』は商店街の肉屋のコロケと一緒に楽しく『サクサク』と、そして『もんもん』と過ぎ去って行きました。

9月。なかなか印象的な新曲の完成しない『マウンテンズ』の大山が、ふと言いました。「日本の国歌って、、、なんだか『ドゥームメタル』みたいだよな。」すると、大山、中山、小山の3人の頭上に『ハダカ電球が』点灯しました。学校の校歌をいろいろアレンジしてみよう。と、いうことになったのでございます。

一方、一度は体を張った『体当たり芸』に挑戦しましたが、なかなかパンチの効いた新ネタの完成しない『リバーズ』。『チューブに入ったワサビの一气飲み』芸で死にかけた大川がこう言いました。「げ、原点に帰った方がいいんじゃないか?」そして大川、中川、小川の3人の体を稲妻が走り、彼らの骨格が透けて見えました。名物教師のモノマネメドレーでいこう。高校生ならではこの答えに達したのであります。

そして、いよいよ10月。文化祭の最終日。体育館のステージ上での生徒達による『隠し芸』大会。『マウンテンズ』も『リバーズ』も集中を極限にまで高めるために、自分たちの番の直前まで体育館の外で待機しました。体育館の裏では太郎君と花子さんがいちゃついていたが、二人とも『この世の存在』ではありませんでした。体育科の教員達はマージャンに興じておりました。そしてステージ上では非公認団体『パフォーマンス愛好会』による『下品極まりない劇』が終了し、3人編成バンド『マウンテンズ』の出番となりました。

初めは吹奏楽部からドラムセットを借りる予定でしたが、『マウンテンズ』の小山がそれを拒否。自らバケツや鍋などを用意しまして、アメリカの大道芸人の様なオリジナルドラムセットを作り上げました。で、彼らの演奏する『校歌、ロックバージョン&バラードバージョン』の反響は『ややうけ』の『ちょっと上』でした。天国では校歌の作曲者が『ばかうけ』なる『せんべい』を食べながらその様を雲の上から見ておりました。で、どうしても人気一位になりたかったので結局、彼らは若者に人気の曲の『カバー』するという、半ば『卑怯な奥の手』を披露してステージを降りました。

続いて、体育館イベントのトリ。お笑い3人組『リバーズ』の登場でございます。『ドリフの教室コント』を連想させるセットを組み、教師と生徒のやり取りという設定で『名物教師のモノマネメドレー』をテンポよく披露しました。『最高齢』非常勤、社会科のO教諭のモノマネ。「え〜、、、我々え〜老人はあ〜、、、スッポンの首を『スッポン』なんてえ、切りましてえ、、、その血を飲む、、、なんてえことを〜、、、」まあ、こんな感じで『ばかうけ』とまでは行かないまでも、生徒達からの反応は『いい感じ』でございました。適当に『いい感じ』の反応が返って来たので、ステージ上で『尻を出す』『コウモリの死骸を喰いちぎる』などの『緊急時の奥の手』を使わずに済みました。

校庭で行われていたフォークダンスでは『ポジション争い』のために男女合わせて21人のケガ人が出ました。参加した女子生徒の間での一番人気は、日米ハーフの来渦トム(くるうず・とむ)君でございました。そして、午後18時。文化祭の終了を告げる『花火』が打ち上げられました。沖に釣りに出ている数学のY教諭が無事に海岸に打ち上げられました。なぜか地学のK教諭(あだ名は『サダさん』)の岩石コレクションが中庭にぶちまけられました。(犯人は逃走。)

そして、『野鳥クラブ』による『人気投票』の集計がまとまり、結果発表。『マウンテンズ』と『リバーズ』の獲得票数はなんと、、、同じでございました。ドローでした。

しかも、人気一位は彼らではありませんでした。見事一位に輝いたのは、、、大森、中森、小森、森、大林、中林、小林、林、の二年生、計8人による高校生プロレス団体、『ジャングルプロレス』。新世代の誕生でございました。新しい時代の始まりでした。入場曲はもちろん『Guns n' Rosesのwelcome to the jungle』でございました。その中でも大森と大林の演じる『覆面タッグ、超ウルトラ・グレイト・スロトングマシン1号、2号』対、中森と中林の演じる『ジャイアン馬場&ラッシュアワー木村』のタッグマッチは『バカウケ』でございました。『おかつぱ頭』の森が自ら『ウォーズマン』と名乗ったのも成功の要因の一つでございました。おかげで翌日から彼のあだ名は『かまくら』から『ウォーズマン』に昇格しました。

ちなみに、彼らは『高飛び用のマット』を無許可で持ち出し、使用したため、体育科の教員からお叱りの言葉をうけまして、体育館倉庫の掃除という『強制労働』をさせられたのでございました。体育館倉庫でも太郎君と花子さんがイチャついておりましたが、やはり二人とも『この世の存在』ではありませんでした。校内七不思議みたいなものでございます。

ところで、人気投票の最下位は落語研究会による『グリム童話を落語風にしてみる』でございました。

『マウンテンズ』と『リバーズ』の得票数が同じだったため、卒業アルバムの1ページは仲良く2分割されました。3年間に渡る彼らの人気争いは痛み分けのドローということで、双方仲良く『ユニフォーム交換』ならぬ『卒業アルバム交換』という『まったくもって意味の無い』友情表現を行いました。そして卒業式と共に『マウンテンズ』も『リバーズ』も解散され、その夜、居酒屋で大山、中山、小山、大川、中川、小川の6人は仲良く『国家権力(警察)』にお世話になりました。プライドの高かった彼らは『隣り町の大学』の生徒であると主張をしたもようでございます。しかし、すぐに嘘がバレました。ちょうどパチンコ屋で盗難にあって、被害届を提出に来ていたH教諭と遭遇したからでございます。中川と小川のクラスの担任でございます。H教諭は買ったばかりの『18歳未満お断り、アダルトDVD(予約特典付き限定品)』を盗まれたもようです。生徒と教師がお互いに『会いたくない時』に『会いたくない場所』で遭遇した瞬間でございます。

それから20年後。『元マウンテンズ』も『元リバーズ』も職業はみなバラバラですが、普通のお父さんになっておりまして、自宅で酔っぱらっては自分の子供達に「熱く生きる。」とか「わんぱくでもいい、たくましく育てて欲しい。」とか「Bark at the moonが『バカだもん』に聞こえる。」などと言って洗脳しておりました。たまに卒業アルバムを開いては、ユニコーンの『すばらしい日々』を口ずさんだりしております。

一方、実際に旗揚げをした有限会社『ジャングルプロレス』は、一度は『週刊〇ング』や『オレンジ〇ージ』などに登場しましたが、『総合格闘技』が主流の世の中で、その環境に適応できず、ゆっくりとフェイドアウトしてゆきました。その『ジャングルプロレス』経営の不安定さに誰よりも早く気付いた林は退団し、小さな『カレー専門レストラン』の経営を始めました。その名も『カレーのハヤシ』、、、お客様からはしばしば「どっちだ!? (カレーなのかハヤシなのか)」とつっこまれておりました。